

平成29年1月12日(木)

老球の細道297号

## ゲームマネジメント <13>

### ゲーム終了間際の指導

会津バスケットボール協会 室井 富仁

何年コーチを経験しても緊張で心臓ドキドキの場面がある。ゲームの残り時間が数秒で、得点差が1点から3点差の場面で、どのように指示をするかを判断する時である。このような場面こそコーチの手腕が問われ、コーチの醍醐味を感じる瞬間である。

このような場面は大事なゲームになればなるほど必ずやってくる。ゲーム終了間際の指導は、準備もしないでコーチの思いつきや偶然にまかせていると勝てるゲームも落としてしまうことが多々ある。場合によっては選手からも見放されてしまうことになる。

普段から残り時間と得点差の場面を想定した練習は重要である。平成7年の福島国体において、福島県少年女子は準々決勝で長崎県にゲーム終了前1秒で外からのシュートを決められ1点差で逆転負けを喫したことがある。長崎は普段からハーフコート3:2の練習で5秒以内でシュートを決める練習をしていたということだった。

このようなシチュエーション(場面)練習もさることながら、ゲーム終了間際数秒の1点から3点差の場面における指示はコーチの勝負である。このような時心臓バクバク、顔面蒼白で冷静に指示ができなくなるようにならないためにも、自分なりの指示の原理原則を確立して常に準備しておきたいものである。

倉石平著『倉石平の21世紀はNBAから学ぼう』(日本文化出版)にはNBAコーチの考え方がわかりやすく掲載されている。蛇足を含めて簡単にまとめて紹介する。

1・自分たちがリードしている時のディフェンスをどうするか

#### ①3点リードしている場合

最悪の場合、相手に入れられても負けない。だから2点シュートをさせる。埼玉の世界選手権準決勝でギリシャ(?)がやっていたが、チームファール5回だったので、わざとファールをして相手に2本のフリースローを与えて、最後はマイボールでキープという作戦だった。

3点シュートをさせないためには、相手にシュートまでのリズムを作らせない(セットプレイをさせない)ようにし、相手のシューターには絶対にシュートを打たせない、またはボールを持たせないように守る。

#### ②2点リードしている場合

シュートを決めさせてはいけない。特に3点シュートは絶対打たせてはいけない。決められたら負ける。奇策は不要。自分たちが練習してきた最高のディフェンスで積極的に守ること。

#### ③1点リードしている場合

リードしていても負けている状況だと思ってディフェンスをする。絶対に勝ちを意識しない。かつて歌手美空ひばりが名曲「柔」の中で「勝つと思うな♪思えば負けよ♪」と歌っていたがまさにその通りなのである。積極的にプレッシャーをかけ、相手にシュートチャンスを与えないだけでなく、パスのチャンスも与えない。但し、チームファールが4回になっているときはファールを絶対にしてはいけない。 (続く)